

コミケビギナーのための 超・速・解 アドバイス

ComiNavi



コミケットやホビーを取り巻く状況はどんどん変わって
いきます。でも、変わらないものだってありますよね。

また、暑い熱い夏コミがやってきます！ 暑さ対策は万
全ですか？ 持ち物の用意は？

皆で3日間を思い切り楽しみ、そして無事に過ごしまし
ょう。それがコミケットを未来に繋ぐってことなんです！

■■虹(レインボーブリッジ)の彼方に■■

去年の夏コミでは、あまりの湿度にホール内に霧^{もや}がかかったり、屋外では温度計が壊れるなどの現象が見られるに至った。過酷な環境の中で最大限自分の活動力を維持し、欲しかった物を手にすることができるか。今回の夏コミがどうなるにせよ、あえてそれに挑む以上は頭脳にも身体にも、対処方法と準備をいっぱいにして、会場に向かう必要がある。

一度会場に着いたら消耗品の調達も簡単ではない。『行ってから考えよう』では、通用しないのだ。

■日射シニモ夏ノ暑サニモマケヌ■

会場外では強い日射しとそれを受けた地面からの照り返しにじりじりと炙られ、多少なりとも冷房の効いた館内に入ってやっと一息と思いきや、ホール内は高い湿度と人口密度でじつりと暑い。

夏コミ参加者に最初に求められるのが、この日射しと気温と湿度の三位一体攻撃をどうしのぎきり、会期中活動し続ける体力を維持できるのかという命題なのだ。



●まずは日射しをブロック

晴れていればもちろん、多少曇っていても、日射しの熱量は大きい。日光は気温を上げるように、肌を日に晒せば直接体温を上げてしまう。それは体力を消耗させるだけではなく熱中症の大きな原因となる。気温が高く、湿度も高い時には一度上がってしまった体温は簡単には下がらない。夏の暑さ対策とは、そもそも最初からいかに体温を上げ過ぎないかにかかっていると云える。そのためにも、まずはしっかりと日射しから身体をガードしよう。

直射日光を防ぐ最も簡単な方法は当然ながら日陰に入ることだ。しかし場所を自由に選べない待機列ではそうもいかない以上、自前で日陰を用意するしかない。

そう聞いてすぐに思いつくのは日傘だが、参加者同志が密集している待機列では日傘は全方位に突き出した骨の先端が周囲の参加者の顔や眼の位置に来ることになる。先端が当たれば迷惑だけではなく大きなケガをさせてしまう危険も極めて高いので、コミケットの待機列中では全くオススメできない。ではどうするか、といえは周囲に迷惑にならない日除けを用意するのだ。

●帽子

日射し対策の基本の基本、必須アイテム。キャップよりも頭の全周につばのあるハット型の方がより効果的。熱気が中にこもらない通気性の良いものを用意しよう。日射しのない館内では外しておいたほうがよい。

●バスタオル、スポーツタオル

首や頭からかぶり、首筋や耳の日焼けを防ぎ背中^に直射日光が当たるのを和らげる。スカートなどの脚が露出するファッションの参加者は(丈に関係なく)脚にも必ずこれらの日除けをかけて待機しよう。

